

# 冬季宮古圏域特別支援研修会



冬季宮古圏域特別支援教育研修会が1月9日(水)、本校を会場に開催されました。宮古圏域にある小学校・中学校・高等学校の特別支援教育にかかわる教職員23名が参加し、本校の三田祐一指導教諭が講演しました。

小学校・中学校  
高等学校

## 「思春期にみられる不登校等の不応症候の理解と対応」



### 思春期にみられる不応症候

＝自分に目が向くところから始まる

- 他人を気にする。
- 迷惑を掛けているのではないか？
- 例：視線恐怖、赤面恐怖、不安障がい…

それでは、  
不登校は？



### 不応症候からみた不登校

学校に対する不応症候があります。  
→学校が嫌い、なじめない

### 症候の背後にあるもの

→心身症的症候です。  
例えば、不定愁訴としての起立性調節障害、加えて抑うつ等の症候、発達障害等も見のがせません。

### <不登校対応のポイント>

- 1 学校に行かせることを目的としない
- 2 適度な登校刺激
- 3 柔軟な受け入れ体制
- 4 保護者との連携（家庭でできることはたくさんある）
- 5 関係機関との連携

以上のような取組から、  
ほどよい目標の設定と生徒の居場所づくりへ

### ～参加者の感想～

- ・「学校が楽しい」「学習が楽しい」と思えるように、さらに「分かる授業」を心掛けたいと思った。
- ・内陸と沿岸の実態、違いを知ることができ、それを踏まえた対応、指導を考えていくことが必要であると感じた。不登校生への対応の仕方、そして家庭でできる登校準備のポイントは今後に生かしていきたい。
- ・不応障がいの複雑さについて知ることができた。
- ・最近の脳科学や医学的な情報も知ることができ、普段はそのような情報を得る機会が少ないので良かった。
- ・担任する児童が思春期に入っているので今後の指導に悩んでいる。特に、登校を渋る発達障がいがある児童なので、どうすべきか迷っていたが、すぐ対応していきたいと思う。